

英国における高等教育機関の 質保証とTEF

林 隆之（政策研究大学院大学）

※大学改革支援・学位授与機構 国際課に一部の情報提供をいただきました。

-
- 「知の総和」答申が提起するような段階判定を行っている教育評価としては、英国のTeaching Excellence Framework (TEF)がしばしば参照される。
 - ただし質保証・向上という点からみれば英国は、
 - 大学として登録・登録維持されるための質と水準の規制枠組み（質保証）
 - それ以上の質向上を目的とするTeaching Excellence Framework (TEF)の二つの仕組みがある。

質保証

- 2017年高等教育・研究法に基づき、イングランドでは2018年4月から**高等教育機関登録制度を開始**。大学が政府からの公的資金を受けたり、学生ローンを学生が受給するためには、登録されることが必要。
 - 2023年までは英国高等教育質保証機構（QAA）が学生局（Office for Students: OfS）の委託を受け、登録希望機関を対象に「質・基準レビュー」を行っていたが、OfSの規制方針が「欧州欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン(ESG)」に合致しないこと（評価結果の公表や学生参画）や、質向上重視のQAAの方針と合致しないことから、2023年3月に委託終了。2023年4月からはOfSが一括して審査業務を実施。

規制枠組み（高等教育機関登録簿への新規登録及び登録継続のための一般要件）

- A: 様々なバックグラウンドを持つ学生に向けた高等教育への進学及び学習機会の提供
- B: すべての学生に向けた教育の質、信頼できる基準、高い学習成果
 - B1 学業経験
 - B2 リソース、支援、学生参画
 - B3 学生の成果
 - B4 成績評価、学位授与
 - B5 高等教育セクターで認められる水準
 - B6 Teaching Excellence Framework(TEF)への参加
 - B7 質（初期条件のみ：登録日以降に条件B1、B2、B4を遵守することを可能にする信頼できる計画を持ち、その実現に必要な能力とリソースを持っていないなければならない）
 - B8 基準（初期条件のみ：学位授与基準が、高等教育セクターの基準と一致することを信頼出来る方法で証明しなければならない）
- C: すべての学生の利益保護
- D: 財政的な持続可能性
- E: 良好なガバナンス
- F: 学生への情報提供
- G: 授業料及び資金獲得に関する説明責任

・ リスクベースアプローチ

- 新規登録を希望する高等教育機関は、学生局（Office for Students:OfS）に申請書とエビデンスを提出。登録要件を満たしているかを審査。
- **既に登録された大学は、リスクがなければ簡素なモニタリング**
 - すべての高等教育機関は、一般要件（OfSから指摘されていた場合は個別要件も含む）を継続して満たしているかどうかモニタリングを受ける。
 - モニタリングでは、学生数、入学者数、卒業率、進路状況などの「リード指標（Lead indicators）」等を確認。
 - 指標に大きな変化があった場合には、高等教育機関の環境や活動に変化が生じたとして、今後、登録要件に抵触するリスクが高まった可能性があるため詳細な調査を行い、リスクがあると認識された場合には一般要件を超える個別要件をモニタリングに課すなどする。
 - 要件を満たさないことが確認されれば、罰金や登録削除を科す。
 - また、Office for Studentsは5%程度の高等教育機関をランダムに選んで詳細な分析を行う。

Teaching Excellence Framework (TEF)

<https://www.officeforstudents.org.uk/for-providers/quality-and-standards/about-the-tef/evaluating-the-tef/>

- 学生局(Office for Students: OfS)が実施。最低要件を超える「教育の卓越性」を評価。
- 過去の経緯
 - 2017-19年にTEFを試行的に3回実施し、計300以上の高等教育機関が参加（任意参加）。
 - 2015年での導入に向けた議論：
 - ✓ 質の高い教育を行っている機関の情報を学生に提供し競争市場を形成する。
 - » 過去の調査において60%の学生が自身の所属するコースは一つ以上の項目で期待を下回ったと回答。雇用者側は卒業生の能力不足を指摘。20%の卒業生が大卒以下の専門性の低い職に就いているという調査結果。
 - ✓ 1980年代から行われている、研究の卓越性評価（**Research Excellence Framework: REF**）と同様に、教育が卓越した機関に報奨する必要。
 - 過去2回では機関別に加えて、分野別を試行的に実施（結果は非公表）。
 - 2017-18年には、2つの方法を提案して比較。
 - ✓ 案1：大学単位の結果と異なると想定される分野のみを実施。
 - ✓ 案2：すべての分野の評価をした結果を、大学単位の判定にも活用。
 - ✓ どちらも負担軽減のために分野レベルのデータ数を制限していたため、不完全情報という課題。
 - 2018-19年には、分野別と機関別の両方を完全情報で実施する方式を試行。
 - ✓ 分野別でもデータを包括的に分析。
 - ✓ しかし、分野レベルの指標の不完全が判明（データ欠落、学生が少人数の場合のデータの問題、学際コースと分野分類の関係）
 - その後のレビューやコンサルテーションを経て、**分野別は実施しないと決定**。
 - 作業負担。データ不完全のリスクが高い。
 - 今後は機関別評価の中で、学内での分野間のばらつきも考慮（データを分野別に提供。機関の提出書類でも分野について言及）

TEF2023

- 概要

- TEFは高等教育機関の教育の卓越性（teaching excellence）を評価し、その改善を促す。
 - TEFの格付けは、**高等教育機関の評判に影響を与え、学生の進路選択に情報を提供する**することで、**優れた教育へのインセンティブ**を与える。
 - 現在はTEF格付けを得ると（＝銅以上）、授業料の上限を物価上昇率に合わせて設定可能（2025-26年では、上限9,275ポンド→9,535ポンド）。
- 4年ごと実施予定。評価結果は4年間有効。
- TEF2023には228機関が参加。参加には規制枠組みの要件Bが必要。イングランドの学生数500人以上の機関は参加が義務（要件B6による）。それ以外は任意。
- 学士課程のみを対象に、機関単位で実施。

評価方法

- 以下の2側面を評価した上で、全体を総合評価（ともに4段階）。
 1. 学生の経験 (Student Experience)
 - ◆ 学業経験と成績評価 (Academic experience and assessment) <SE1～3>
 - ◆ リソース、支援、学生参画 (Resources, support and student engagement) <SE4～7>
 2. 学生の成果 (Student Outcomes)
 - ◆ 良好な成果 (Positive outcomes) <SO1～3>
 - ◆ 教育的向上 (Educational gains) <SO1～6>
- 評価は以下の3つの情報（過去4年間の情報）に基づいて実施
 - 高等教育機関からの提出文書（最大25ページ）
 1. 機関の背景（機関の背景・教育使命・戦略的目標、学生やコースの規模等の特徴ど）
 2. 学生経験の説明・証拠
 3. 学生成果の説明・証拠
 4. 参考文献・データの出典
 - 学生側からの独立した提出資料（文章ならば最大10ページ）
 - ✓ 提出は任意。
 - ✓ 教育機関の提出書類とTEF指標を補足するもの。高等教育機関での学生生活がどのようなものであるか、またその経験から何を学んだかについて、学生の視点を提供する。
 - OfSが提供するTEF指標（例：NSS、継続率、卒業後進路等）
- 評価は、専門家パネル（学生の委員を含む）が上記をもとに総合的に行う。

評価の基準（1）

	学生の経験 (Student Experience)	
	学業経験と成績評価 (Academic experience and assessment)	リソース、支援、学生参画 (Resources, support and student engagement)
卓越した (outstanding) 質の特徴	SE1. 教育、成績評価、フィードバック 高等教育機関は、学生の学習、進展、達成を支援するために、非常に効果的でカスタマイズされた、卓越した教育、フィードバック、評価を実践している。 SE2. コース内容と提供方法：学生の学習への関与と知的挑戦 コースの内容や提供方法は、学生が積極的に学習に取り組み、潜在能力を最大限に発揮できるよう、知識やスキルの向上を促すものである。 SE3. 研究、イノベーション、学術活動、専門的实践、雇用主との連携 高等教育機関は、関連分野の研究、イノベーション、学術活動、専門的实践、雇用者の参画を活用し、学生の卓越した学業経験に貢献している。	SE4. 教職員の専門能力開発と学術的实践 教職員の専門能力開発に対する卓越した支援があり、優れた学術的实践が機関全体に浸透している。 SE5. 学習環境と学業支援 支援的な学習環境が確保され、学生はニーズに応じた幅広い卓越した学業支援を容易に利用できる。 SE6. 学習リソース 卓越した教育・学習を支援するために、物理的・バーチャルな学習リソースが、カスタマイズされて効果的に利用されている。 SE7. 教育改善における学生の参画 学生の経験や成果を継続的に改善するために、学生参画を機関に組み込んでいる。
非常に高い(very high) 質の特徴	SE1. 高等教育機関は、学生の学習、進展、達成を支援するために、効果的で非常に高い質の教育、フィードバック、評価を実践している。 SE2. コースの内容や提供方法は、学生が学習に取り組み、知識やスキルの向上を促すものである。 SE3. 高等教育機関は、関連分野の研究、イノベーション、学術活動、専門的实践、雇用者の参画を活用し、学生の非常に高い質の学術経験に貢献している。	SE4. 教職員の専門能力開発に対する非常に高い質の支援があり、優れた学術的实践が推進されている。 SE5. 支援的な学習環境を促進しており、学生は非常に高い質の学業支援を容易に利用できる。 SE6. 非常に高い質の教育・学習を支援するため、物理的・バーチャルな学習リソースが効果的に利用されている。 SE7. 学生の経験や成果を改善するために、学生参画に効果的に取り組んでいる。
高い(high) 質に関連する最低要件	一般要件B1 学業経験 一般要件B4 成績評価、学位授与	一般要件B2 リソース、支援、学生参画
注釈	SE1、SE2、SE5、SE6、SE7：これらの特徴を特定するための証拠は、NSSに基づく指標と提出書類の証拠との組み合わせとなる。NSSに基づく指標が機関のベンチマークとほぼ一致している場合は、「非常に質が高い(very high)」特徴を示しているとまず解釈される。ベンチマークを大幅に上回る指標は、「卓越した質(outstanding)」を示すものとまず解釈される。NSSに基づく指標は、提出書類における卓越性を示す証拠によって補完される必要があります、全体として、学生経験の側面における「非常に質が高い」または「卓越した」特徴を示す証拠の半分以下にしかない。 SE3：本特徴は、機関の状況や提供するコースの種類に応じて、学生が関連分野の研究に触れること、カリキュラムや教育・学習方法の革新、学術活動、関連職種の実務家の関与、コースの設計・提供における雇用主との関わりなど、1つまたは複数の項目を通じて、学生の学術経験がどの程度豊かになっているかを、提出書面を通じて実証する機会を提供する。	

評価の基準（2）

	学生の成果(Student Outcomes)	
	良好な成果 (Positive outcomes)	教育的向上 (Educational gains)
卓越した(outstanding)質の特徴	S01. 学生の学業成功を支援するアプローチ 学生が学業を成功させ、先に進むことができるよう、非常に効果的なアプローチを展開しカスタマイズしている。 S02. 在籍継続率や修了率 学生やコースの在籍継続率や修了率が卓越している。 S03. 進路進展率 学生やコースの進路進展率が卓越している。	S04. 期待される教育的向上 機関は、学生が達成することが期待される教育的向上の範囲と、それが学生とその将来の目標に大きく関連する理由を明確に説明している。 S05. 教育的向上を支援するアプローチ 学生が教育的向上を達成できるよう支援する機関のアプローチが、エビデンスに基づき、非常に効果的であり、学生とその出発点の違いにカスタマイズしたものである。 S06. 教育的向上の評価と実証 機関は、学生による教育的向上を評価し、学生が期待される向上を達成していることを実証している。
非常に高い(very high)質の特徴	S01. 学生が学業を成功させ、先に進むことができるよう、効果的に支援している。 S02. 学生やコースの在籍継続率や修了率が非常に高い。 S03. 学生やコースの修了率が非常に高い。	S04. 機関は、学生が達成することが期待される教育的向上と、それが学生に関連する理由を説明している。 S05. 学生が教育的向上を達成できるように、効果的に支援している。 S06. 機関は、学生による教育的向上を評価している。
高い(high)質に関連する最低要件	一般要件B3学生の成果	
注釈	S01～S06：これらの特徴を特定するための証拠は、学生の成果を示す指標（S02とS03向け）と提出書類の証拠との組み合わせとなる。全体として、指標は、学生の成果について、非常に質が高い、または卓越した特徴を示す証拠の半分以上にしかならない。 S02とS03：これらの特徴は、条件B3に含まれる要件を基礎とし、高等教育機関が学生やコースの組み合わせに対して、どれだけ優れた成果を提供しているかに焦点を当てた形で定義されている。これらの特徴は、まず、継続率と修了率（S02）および進路進展率（S03）のベンチマークに対する機関実績を考慮することで評価される。機関のベンチマークとほぼ一致する指標は、「非常に質の高い(very high)」特徴を示しているとまず解釈される。ベンチマークを大幅に上回る指標は、「卓越した質(outstanding)」を示すとまず解釈される。進路進展指標は、管理職や専門職への就職、または進学する学生の割合を示す。高等教育機関が提出書類の中で、学生にとって他の種類のプラスの成果を示すことができることを我々は認識しており、そのため、進路進展指標によって把握される成果よりも、より広範にS03を表現している。 S04～S06：教育的向上 (educational gains) の特徴は、最低の質要件に追加されるものであり（B条件の上に直接構築されるものではない）、総合的にB条件を「実質的に上回る」ものと考えられる。現在、教育的向上に関する全国的な尺度は存在せず、多くの高等教育機関は学生に提供する教育的向上を測定するための独自のアプローチを開発していない可能性があることを、我々は認識している。教育的向上の特徴は、教育機関が学生に達成させる教育的向上の明確化、教育的向上を支援するための教育機関のアプローチ、教育機関の学生が達成した教育的向上の証拠に関連させている。TEFのパネルは、すべての学生成果の特徴に関連する証拠を評価し、学生成果の評価について総合的な判断を下す。 このアプローチは、教育的向上を測定し証明するための実践を確立するための時間を高等教育に与えることを意図しており、その後のTEF実施における評価の焦点となる可能性がある。	

「教育的向上（Educational Gains）」項目

- 高等教育機関が特徴や使命に照らして自ら定義する。機関からの提出書類の情報・証拠に基づいて評価。学生提出書類によって補足されることも。
- TEF2023では以下の3点を考慮。
 - SO4: 学生が達成することが期待される教育的向上の明確な説明
 - SO5: 教育的向上を支援するためのアプローチ
 - SO6: 学生が達成した教育的向上の証拠
- 提出書類で明確にすべき教育的向上の範囲：
 - 在籍継続、修了、進路進展のTEF指標を超える、幅広い教育的向上をカバーする。
 - 機関の学生やコースの構成に関連している。
 - 理想的には、学生のスタート地点の違いや、変化量（distance travelled）を考慮する。
- 教育的向上には様々な内容を含めることができる：
 - 学術的能力：専門分野の知識、学術的スキル（批判的思考力、分析的推論力、問題解決力、アカデミックライティング、調査・文献参照スキル等）
 - 個人的能力：レジリエンス（回復力）、モチベーション、自信、ソフトスキル（コミュニケーション、プレゼンテーション、時間管理、ネットワーキング、対人関係能力）。
 - 就労準備力：就業可能スキル（チームワーク、ビジネス意識、リーダーシップ、影響力など）

出典：Regulatory advice 22: Guidance on the Teaching Excellence Framework (TEF) 2023, p.31

高等教育機関からの提出書類に書かれることが期待されるエビデンスの例（決して制限するものではない）

学生の成果

例えば、年次モニタリングや定期的レビュー、教育戦略や介入策のモニタリングや評価、内部データの分析、学生や職員からのフィードバックやアンケート調査などにおいて、機関が得た内部証拠を活用することができる。例えば：

- 学生がコースにうまく移行、継続、修了できるよう支援するアプローチの有効性に関するモニタリングや評価から得られた所見。特定の学生グループを対象とした介入も含まれる。
- 学生が期待される**教育的向上を達成できるよう支援するためのアプローチ、そのアプローチの開発に役立った証拠や「変化の理論（theory of change）」**、もしあれば、意図した教育的向上を達成するためのアプローチの有効性の証拠。
- 卒業生・修了生からの、高等教育での経験が、知識、技能、自己開発、キャリアをどのように向上させたかに関する肯定的なフィードバック。
- 学生がインターンシップや専門的な活動に参加することにより、スキル向上や進路成功にどのように貢献したかを示す証拠。

提出書類は、外部レビューや報告書などの外部情報源からの証拠を利用することができる。例えば：

- 卒業生の高い雇用適性やスキルに関する雇用主や専門家からのフィードバック。
- 例えば専門職団体等（PSRB）による報告書から、学生が認定やその他の要件以上の専門的能力を達成していることを示す所見。
- 学部課程の成果（報告書の対象となる実習など）に関するOffice for Standards in Education, Children's Services and Skills(Ofsted：英国教育基準局)の報告書からの肯定的な判断や所見。

提出資料には、全国的に入手可能なデータを利用することができる。例えば：

- 教育機関の**TEF学生成果指標の解説や分析**
- 公表されている**Longitudinal Educational Outcomes（LEO：教育歴とその後の雇用・所得などの情報を個人単位で長期的に追跡・結合した英国政府のデータベース）**の分析。
- 卒業生アウトカム調査（TEFの進路進展指標には含まれていない）の追加質問の分析。

TEF指標

■ 学生の経験（特にSE1、SE2、SE5、SE6、SE7）

- 全国学生調査（National Student Survey：NSS）から以下の項目。

指標	使用される NSS の質問
コースの教育	Q1.教員の説明は上手だった。 Q2.教員は授業科目に興味深いものにしていて。 Q3.コースは知的に刺激的であった Q4.コースは私が最善の学業成果を出すように求めてきた。
成績評価とフィードバック	Q8.採点に使用される基準は事前に明確にされた。 Q9.採点や成績評価は公平だった。 Q10.学業成果に対するフィードバックはタイムリーだった。 Q11.学業成果について有益なコメントを得た。
学業支援	Q12.必要なときに教員に連絡することができた。 Q13.コースに関して十分なアドバイスとガイダンスを受けた。 Q14.コースで学業上の選択をする必要があるときに、良いアドバイスが得られた。
学習リソース	Q18.提供されたIT資源と設備は、私の学習を十分に支援してくれた。 Q19.図書館のリソース（本、オンラインサービス、学習スペース等）は私の学習を十分に支援してくれた。 Q20.コース固有のリソース（機器、設備、ソフトウェア、コレクションなど）に必要な時にアクセスできた。
学生の声	Q23.コースについてフィードバックを提供する適切な機会があった。 Q24.教員はコースに関する学生の意見や意見を尊重している。 Q25.コースに関する学生のフィードバックがどのように実行されたかが明確である。

■ 学生の成果（特にS02、S03）

- a. **在籍継続指標**（Continuation indicators）：入学から1年15日後に、高等教育資格・学位の取得に向けて在籍継続（あるいは既に取得した）学生の割合。
- b. **修了指標**（Continuation indicators）：入学から4年15日後に、高等教育資格・学位を取得した学生の割合。
- c. **進路進展指標**（Progression indicators）：卒業生成果調査（Graduate Outcomes：GO）への回答により、修了15カ月後の労働市場およびその他の進路状況。管理職・専門職への就職、進学、その他の良好な進路が確認された資格・学位取得者の割合。

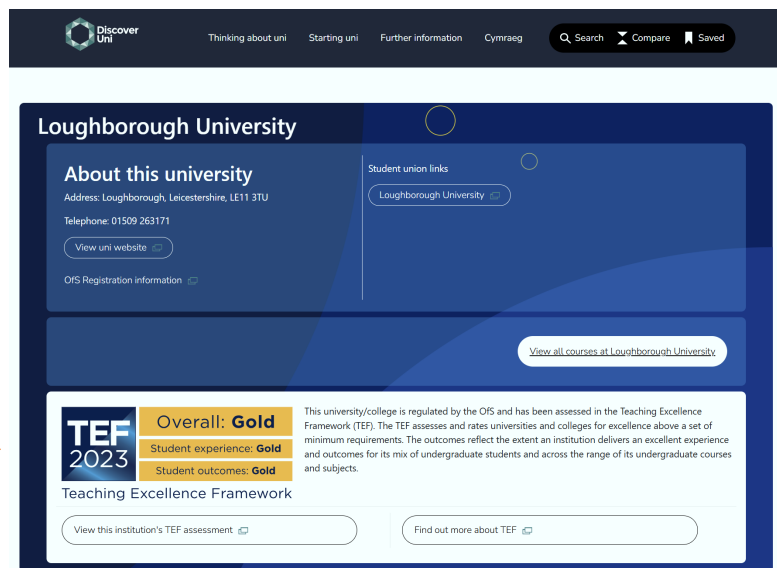
TEF2023の結果

			全体評価 の大学数	大学の例	下位項目 (aspect) の大学数	
					学生の経験 (Student experience)	学生の成果 (Student outcomes)
	金 (Gold)	学生の経験や成果 が卓越している (outstanding)。	51	- University of Oxford - Imperial College London - The Royal Academy of Music - Loughborough University - Harper Adams University	60	51
	銀 (Silver)	学生の経験と成果 が非常に質が高い (very high quality)。	124	- University College London - The London School of Economics and Political Science - University of Manchester - University of Sussex - Falmouth University	103	125
	銅 (Bronze)	学生の経験と成果 は質が高く (high quality)、非常に 質の高い特徴も一 部見られる。	48	- Brunel University London - Goldsmiths' College - University of the Arts, London - Birkbeck College - University of Bedfordshire	52	41
	改善が必要 (Requires improvement)	評価は行ったが格 付けは与えらな かった。格付けさ れるためには改善 が必要。	3	- Arden University Limited - Colchester Institute - David Game College	11	9

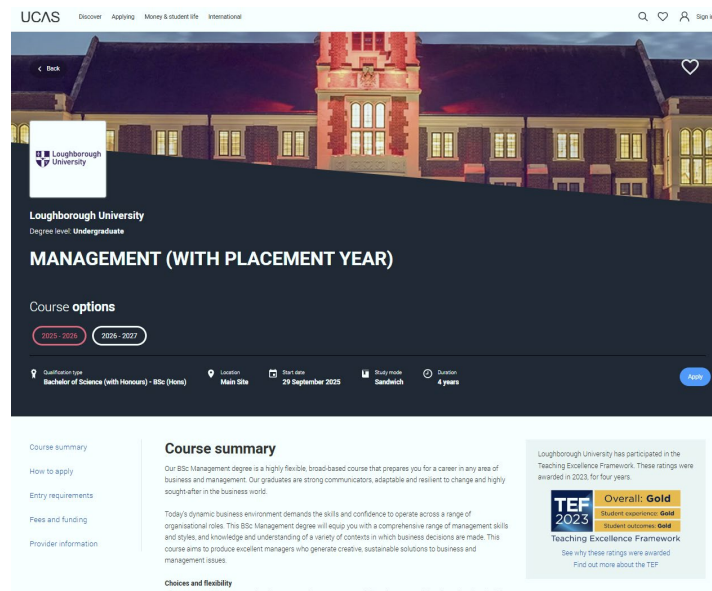
出典： <https://tef2023.officeforstudents.org.uk/> より集計（2025/6/26時点。大学統合により件数に変化あり）

TEFの情報公表

- TEF2023の格付け結果、大学提出書類、学生提出書類、パネル・ステートメントはTEFウェブサイトで公表。
 - TEF指標、学生数等の情報は、TEFデータダッシュボードサイトで公表（次頁）。
- <https://www.officeforstudents.org.uk/data-and-analysis/data-used-in-tef-2023/>
- TEFの格付けは、政府大学リスト（OFS Register）、学生向け進学情報サイト（Discover Uni）、大学出願機関サイト（UCAS）でも公表。



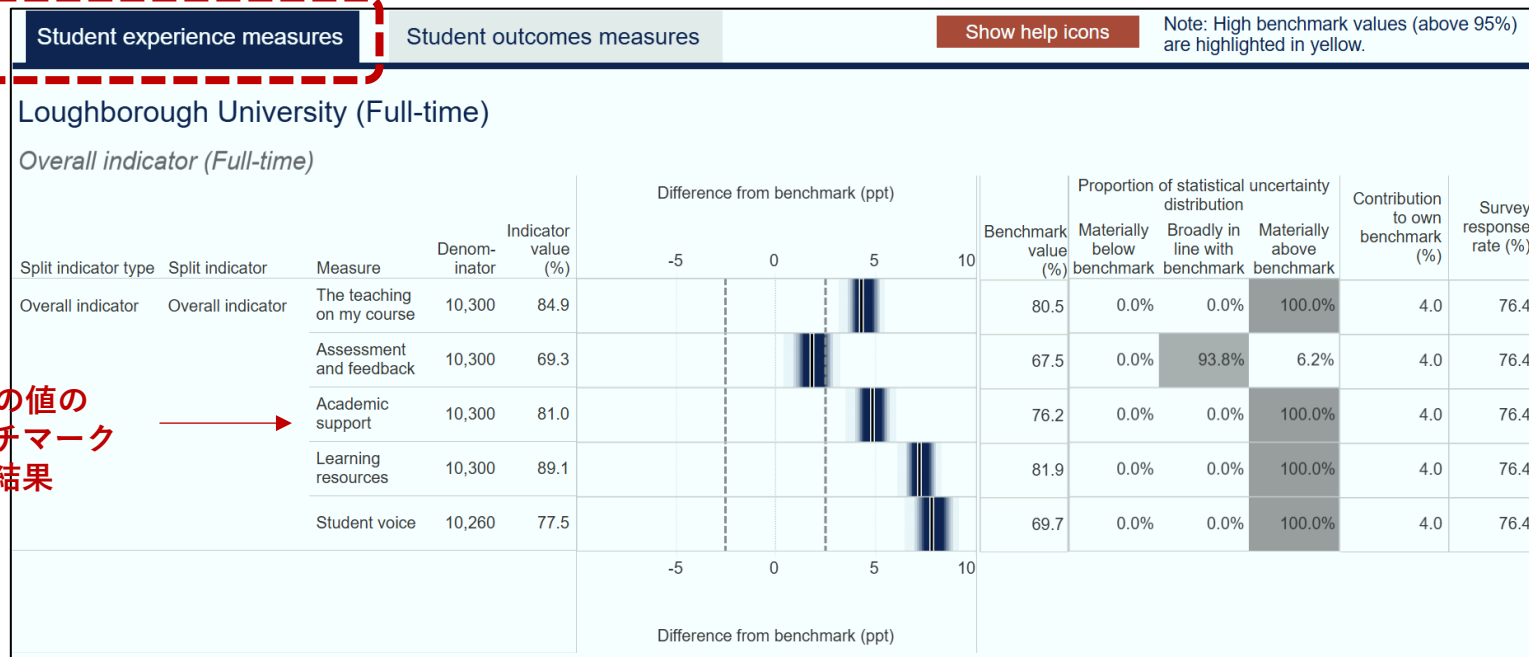
Discover Uni (<https://discoveruni.gov.uk/>)



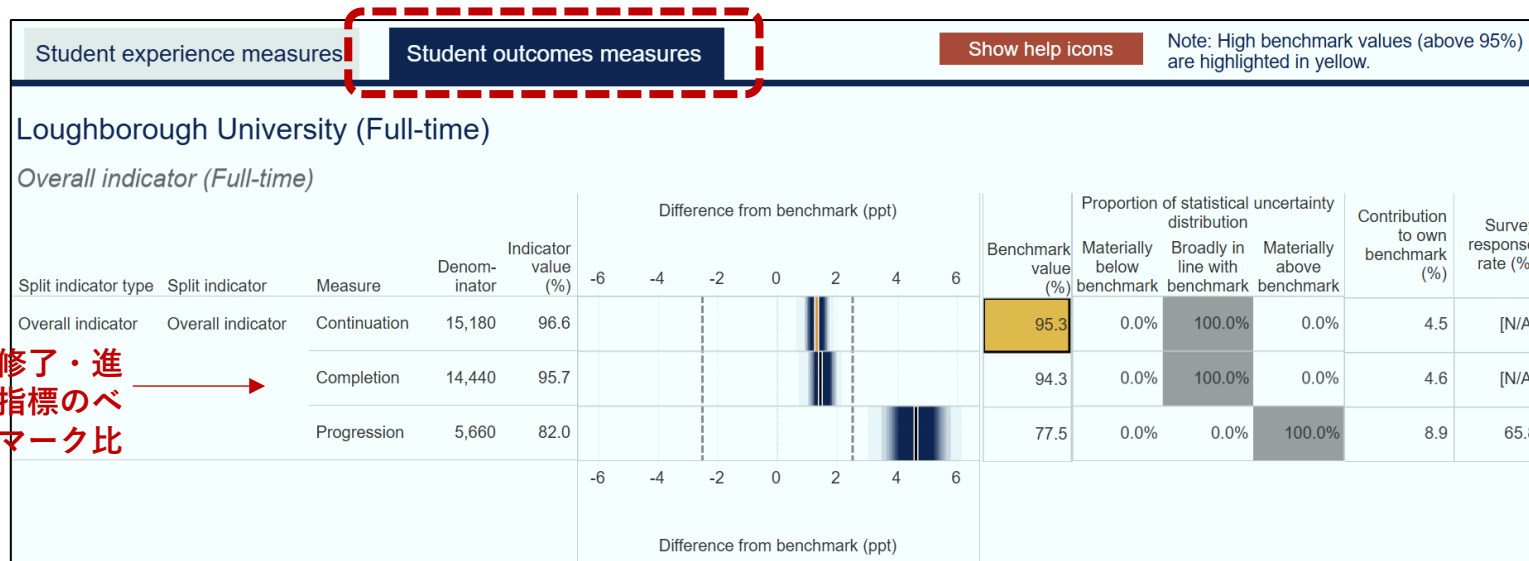
UCAS (<https://www.ucas.com/>)

TEFダッシュボードによる指標の公表（機関単位）

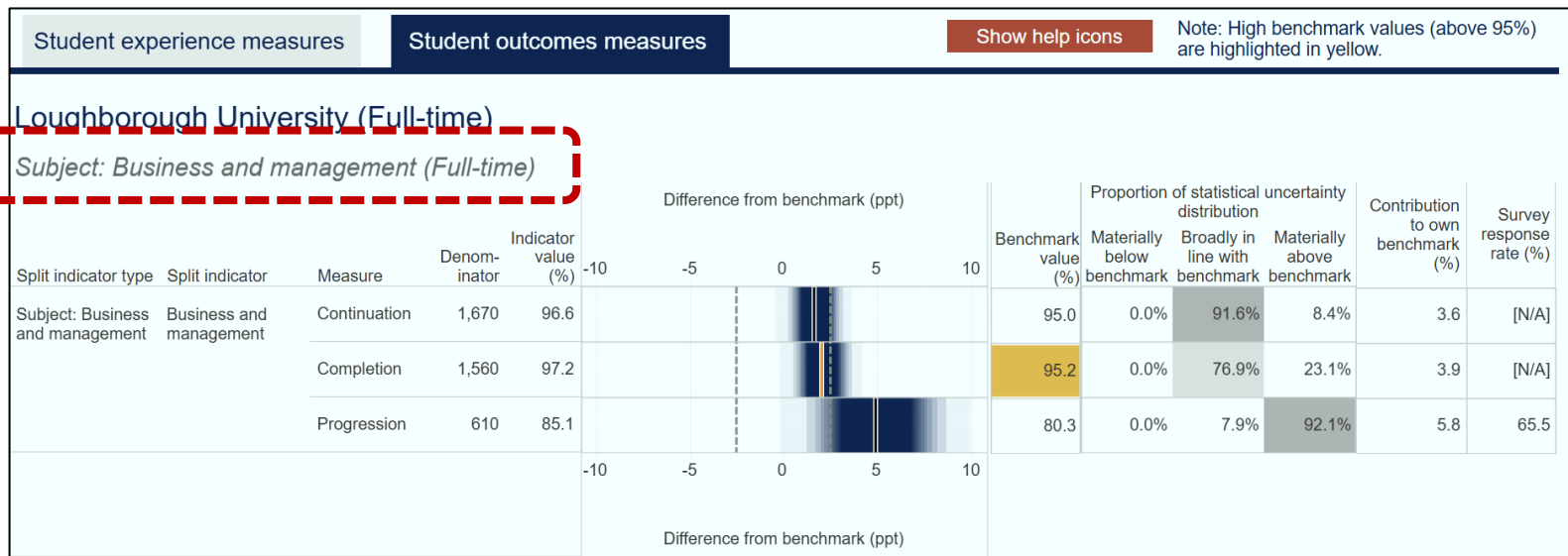
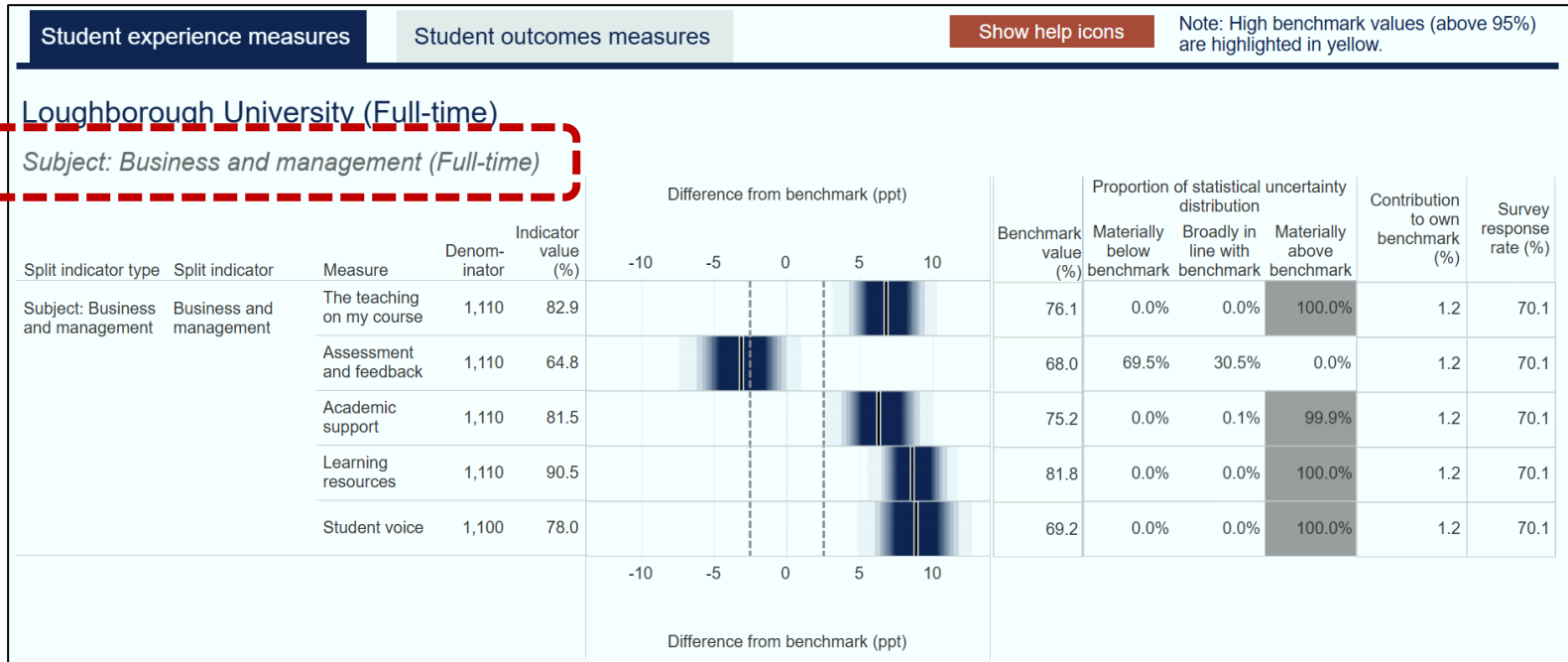
NSSの値の
ベンチマーク
比較結果



継続・修了・進
路進展指標のベ
ンチマーク比
較結果



TEFダッシュボードによる指標の公表（分野単位）



「教育的向上(educational gains)」の優良事例の事後分析・共有

D.Fung (2024), *Educational gains explored: Independent report on higher education providers' approaches to educational gains in the Teaching Excellence Framework (TEF) 2023*

【概要】

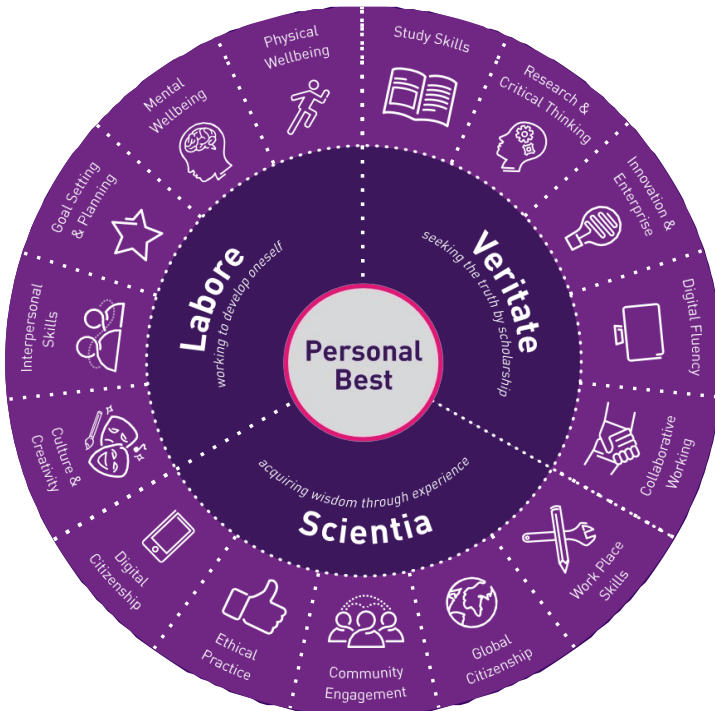
- 教育的向上は高等教育機関の使命と価値観の中核。それは、社会の変化の中で動的なものであり、①**学生個人の利益（知識・スキル・態度の獲得）**だけでなく、②**社会における集団的利益（例：社会的流動性、持続可能性、社会的結束、社会的正義）**も含まれる。
- 教育的向上は、①大学のすべての学生に期待される包括的向上、②特定層の学生の向上（例：遠隔教育の社会人学生）、③学生ごとに最適化した向上（例：個別指導等を通じた教育）
- 教育的向上を達成するため、**多様な教育方法**がとられている（例：分野横断的な学修、PBL、課外活動、キャリア教育、卒業生と連携した教育）
- **教育的向上の測定方法は様々。**
 - ✓ 各プログラムにおける専門的・学際的知識や汎用的スキルの到達度を成績から分析。
 - ✓ 学生の継続率、修了率、進路状況のデータ。
 - ✓ 学生の課外活動への参加状況。
 - ✓ ポートフォリオなどによる学生自身による成長の記録。
 - ✓ 学生調査における「成長実感」設問。
 - ✓ Jisc Learning Analyticsなどのラーナー・アナリティクスのプラットフォームを通じた学生の学修行動履歴、出席状況、学修ツール利用状況。
 - ✓ 芸術・体育等の専門機関では、入学試験と連動させ、入学してからの変化（distance travelled）を把握。

優良事例の紹介サイト

<https://www.officeforstudents.org.uk/for-providers/quality-and-standards/tef-enhancement-resources/>

例：Loughborough Universityにおける 「教育的向上」の取り組み

- ✓ 学生とともに、将来必要なスキルセットを開発
（「Personal Best」プログラム）
- ✓ 大学のモットーであるVeritate（真実）、Scientia（知識）、Labore（労働）をもとに、15の要素を特定。
- ✓ 民間企業による雇用者サーベイも参照して検討。



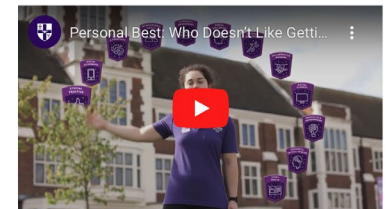
✓ 専用アプリの開発

- ✓ 各要素に対応するバッジ・アクティビティ
- ✓ スキルプロファイル
- ✓ 卒業生が自らの経験や旅路、成功を学生と分かち合う「パーソナル・ベスト：マイ・ストーリー」ゲスト・トーク・シリーズ

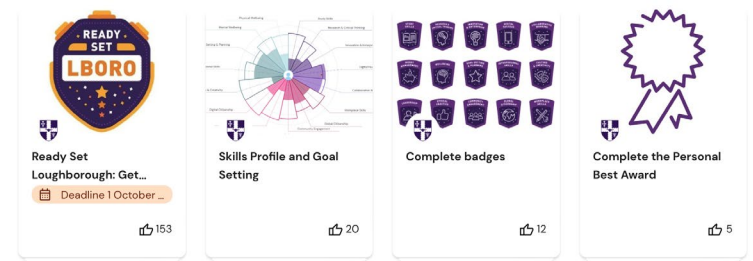


It's time to become your Personal Best

Personal Best is your exclusive development programme designed to help you achieve your academic, professional and personal goals at Loughborough University. Take steps towards your future success today.



Are you new to Loughborough University? Please make sure you have completed our essential induction programme: [Ready Set Loughborough](#)



入学志願者によるTEF情報の利用

Applicants' use of TEF information: Focus groups with prospective students, Savanta.(2024)

■ アンケート → 肯定的な調査結果

- 回答者798人の**42%が志望大学に出願する前にTEFの評価を見たことがある**。
 - 大学のウェブサイトや宣伝資料から直接評価を入手した学生が最も多く（52%）、次いでUCASのウェブサイト（41%）、進路アドバイザーや教師、保護者を通じて入手した学生は4人に1人（26%）。
- 閲覧した情報は、総合評価が最も多く（43%）、次いで項目別評価（33%）。約4人に1人（27%）が高等教育機関の提出書類を閲覧し、5人に1人以上（23%）が学生提出書類を閲覧。
- TEFを見た回答者のうち、**4分の1（25%）は出願する大学を決定する上で非常に重要な要素であったと回答し、半数（48%）はやや重要な要素と回答した**。同様に、どの大学のオファーを受けるかを決める際に、TEFは非常に重要（16%）、重要（36%）、やや重要（27%）であったと回答。

■ 大学志願者グループインタビュー → 微妙な結果

- 調査対象：大学出願を検討中の高校生。地域・学力レベル・関心分野が異なる志願者を選定し、TEFの情報提示後の反応を観察（6グループ、合計35名）。
- 参加者のほとんどはTEFの**金・銀・銅のメダルが「何を意味するか」について混乱や誤解**。「金」＝トップ大学と即断するケースも。
- **記述式評価の価値は高いが、読みにくい**。
 - 詳細な記述（narratives）には信頼感があるという反応が多かったが、文章量が多くて読みにくいという意見も。
 - 「ランキング的な単純な指標」と「深い理解のための記述」のバランスの取り方が課題。
- 出願先決定に影響するのは、立地・コース内容・オープンキャンパスの印象・知人の評判などが主であり、**TEFの影響は限定的**。ただし、複数の候補間で迷ったときには「参考情報」として使う可能性あり。